

職員による自己評価

A環境面

職員の人数・事業所の設備など大変と感じてしまうことがある。

B児童への支援内容

プログラムが固定されないように多方面から情報収集に努めた反面、スタッフ間で共有する機会が少ないと感じる。

C関係機関との連携

常日頃から関係機関とは支援に対して足並みを揃える意識を持っていたことで相互の情報交換を密に連携した。連絡会等の参加率を高めていきたい。

D保護者への説明責任・信頼関係

送迎の際にどのように過ごしていたかを毎回お伝えし、連絡帳にも記載。

E非常対応

研修会・講習会の機会をもっと増やしていきたい。ヒヤリハットをもとに毎月のミーティングで次どのように対応していくかを話し合っている。

保護者による評価

A環境面

一軒家での運営で死角となる所は気になっている。階段や玄関の段差はあるがバリアフリーに関しては求めている。

B児童への支援内容

体を思いっきり動かす機会が多く、運動面で非常に助かっている。コロナ渦でプールに行けな中、遊べる川を探し連れて行ってくれた。

C事業所からの情報発信

インスタグラムに日頃の活動写真が載っていて、活動内容がわかる。毎月のお便りもとてもわかりやすい。

D非常対応

怪我をした際の事後対応がスムーズで安心できた。利用前のスタートブックに緊急時などの事業所対応が記載されていてわかりやすい。

事業所内での分析

【共通点】

一軒家での環境整備に対する事前に起こりそうな事は共通認識で持っており、事業所の階段や段差など危険箇所は目についている。楽しめるプログラムを準備し、子供が楽しく帰宅している。

【相違点】

満足した支援に評価を頂いている一方、職員の人数で足りないと感じる場面が多々見られた。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・スタッフが児童を第一に、何をすれば喜ぶか・楽しめるかを考えマンネリ化しない活動準備に注力している。
- ・スタッフが関わり全てを前向き且つリフレーミングし、その子らしさを最大限見つけ出せるような雰囲気作りが自然とできている。

事業所の改善点

- ・ご利用者様が感じている環境（死角や建物の構造）に対して、対策の必要あり。

事業所の改善への取り組み

- ・鋭角の箇所には衝撃緩和できるような物を使い衝撃に備える。
- ・建物の構造を職員が十分に理解して上で、ポジショニングをミーティングで話し事前に対策する。
- ・連絡会やケース会議など積極的に参加し、各連携機関と支援に対して足並みを揃え齟齬のないように努めていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

自己評価を通して内側からしか見えなかった部分も、保護者様からのご意見を頂戴し改めて沢山の“気づき”が発見できました。定期的に評価を頂くことで少なからずニーズに沿っていけないのではないかと感じています。